



# ゆ〜かい〜ぶす 23号

兵庫高等学校第3学年

## 第48回定期戦

去る5月8日（木）、晴天の下、春季定期戦が神戸高校において行われました。

67回生にとっては、秋のラグビーを除いて最後の定期戦となりました。各会場で熱戦が繰り広げられ、接戦の末、残念な結果に終わった競技もありましたが、これまでの練習の成果を十分に出せたのではないのでしょうか。



応援団の力強い指揮の下、吹奏楽部の演奏に負けないぐらいの大きな声で校歌が歌われていました。

|          | 兵庫 | 神戸  |
|----------|----|-----|
| 野球       | 2  | — 2 |
| サッカー     | 4  | — 2 |
| 男子バレー    | 1  | — 2 |
| 女子バレー    | 0  | — 2 |
| 柔道       | 2  | — 1 |
| 男子ソフトテニス | 2  | — 3 |
| 女子ソフトテニス | 2  | — 3 |
| 総合成績     | 2  | — 4 |

### 最後の定期戦

野球部主将 G. U.

春季のメイン競技である野球は、一昨年は勝利、昨年は敗北しました。初めての定期戦で、吹奏楽部の演奏やたくさんの声援を受けてプレーする先輩方の姿を見て、試合に出ることに強い憧れを持つと同時に、勝ちたいと思いました。



そして先日、僕たち3年生にとって最後となる定期戦が行われました。結果は引き分けで、勝つことは出来ませんでした。自分の結果にも満足できなかったのが不完全燃焼に終わってしまいました。しかし、吹奏楽を始め皆さんの応援のもとで野球ができて本当に楽しかったです。兵庫、神戸高校の野球部だからこそ体験できるあの舞台は、本当に素晴らしいもので、野球を続けてきてよかったと思えました。

最後に、応援していただきありがとうございました。今回の悔しさをバネに、最後の大会である夏の予選での勝利に向けて頑張りたいと思います。

### 声援に感謝

女子バレーボール部主将 K. K.

体育館いっぱいに響き渡る大きな歓声、たくさんの声援を頂きありがとうございました。とても嬉しかったです。みなさんの気持ちに応えるよう精一杯頑張りましたが、負けてしまい本当に悔しくてたまりません。数年負け続けているので、絶対に勝ちたかったです。私達3年のうち4名は、去年もレギュラーとして出させて頂いていたので、今年こそはトリベンジを誓っていました。

この悔しさを、高校バレー最後となる総体にぶつけ、17名全員が一丸となり、1試合1セット1球でも多く、楽しくバレーをし、悔いのないバレー生活を終わりたいと思います。頑張ります。最後に定期戦ではあたたかい応援をありがとうございました。

## 最後の定期戦

サッカー部主将 T. N.

僕が所属するサッカー部は、定期戦での五年無敗記録の重圧がかかる中、勝利を収めることができました。



緊張感があり、拮抗した試合の中、後輩部員をはじめ、スタンドまで足を運んでくださった兵庫生の皆さんの応援が、本当に力になりました。

3年目の野球観戦では、普段では見れない友人の輝く姿に魅了され、応援にも熱が入りました。スタンドから選手に届くように、皆で声が枯れるほど声援を飛ばしたのは最高の思い出です。

兵庫生として参加できる行事も数えるほどとなりましたが、残りの高校生活を素晴らしいものとするよう、毎日を全力で過ごしていきます。

## 定期戦を終えて

男子ソフトテニス部主将 Y. F.

今年は神戸高校との選手層に大きな差があり、挑戦者として挑んだ定期戦でした。ですので、試合前は厳しい戦いが予想されていました。ですが、選手ひとりひとりが奮起し、2-2までもつれこむ大接戦となりました。結果的にはあと一步のところまで負けてしまいましたが、非常に印象深い思い出になりました。

今回は残念ながら負けてしまいましたが、来年は後輩たちにリベンジしてもらいたと思います。

さて、僕たちにはまだ六月に県大会を控えている選手がいます。ですので、今回の敗北を忘れず、これからも日々練習に励んでいきたいです。

最後になりましたが、応援ありがとうございました。



## 最高の思い出

男子バレーボール部主将 M. T.



定期戦は僕にとって楽しみな行事のひとつでした。熱気に包まれた体育館がうねるような大歓声で湧き上がる雰囲気は去年から忘れられず、定期戦が近づくにつれてウズウズソワソワしていました。前日はなにをしていても定期戦のことが頭をよぎって何も手につきませんでした。

そして迎えた当日。やはりスタンドにはたくさんの観客が見に来てくれていました。それを見ただけでワクワクが止まりませんでした。しかし、結果はフルセットの接戦の末、敗北でした。定期戦で勝つことはひとつの大きな目標だったので、本当に悔しい気持ちでいっぱいでした。そして見に来

ていただいた皆さんに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。でも、試合が終わり、野球を観戦する前にいろんな人に「見に行ったで！かっこよかった！」「バレーすごかった！」など他にもたくさん声をかけてもらいました。そのときは悔しさが残ってまともに反応できなかったのですが、後で思い返すとその言葉ひとつひとつが心に染みて、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

負けてしまいましたが、みなさんの応援のおかげでこの定期戦は最高の思い出になりました。来年は後輩たちが借りを返してくれると思います。

みなさんひとりひとりからの声援が僕たちにとって大きな力になりました。声が枯れるほど声援を送ってくれた方々、試合前後に声をかけてくれた方々、応援してくれた全ての人に心の底から感謝しています。

本当に、本当にありがとうございました。

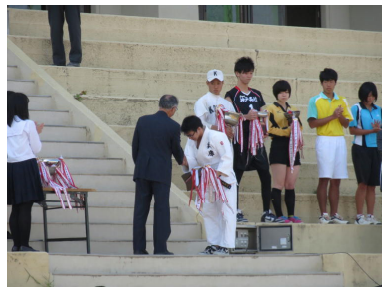
## 柔よく剛を制す

昨年の定期戦は人数不足で出場できず悔しい思いをしました。今年、今年度は新入生が入部したので出場できるようになりました。

神戸高校の柔道部員はとても体が大きいのに対して兵庫高校の柔道部員は体が小さいのでしたら勝てるのか、初めて定期戦に出場する後輩たちは普段通りの力を出せるのか、などいろいろ不安でした。

定期戦当日、たくさんの人が応援に来てくれて、後輩たちがいつも以上の力を発揮し、二対一で勝つことができました。壮行会で言った通り「柔よく剛を制す」というところを見せることができよかったです。応援ありがとうございました。

柔道部主将 S. K.



## 勝つことの責任



女子ソフトテニス部主将 M. Y.

今年こそは絶対に勝つ！と部員全員が意気込んだ定期戦でしたが女子ソフトテニス部は 2-3 で悔しくも神戸高校に敗れました。

定期戦を終えて感じた事は定期戦ならではの独特の緊張感でした。いつもは自分達だけの勝利ですが定期戦では兵庫高校の勝利でもあるのでまた違った勝つことの責任を感じました。今回の定期戦では負けてしまいましたが、自分たちの課題を見つけることができました。今回のことを活かし来年こそは必ず勝ってほしいと思います。応援してくれたみなさん本当にありがとうございました。

## 人権ホームルーム

5月22日7限は10のグループに分かれ人権に関わるDVDを鑑賞しました。

2回に分けて感想を紹介します。

### 園長がハンターになった

H. T.

以前北海道に行った時、多くの鹿を見たがその鹿の存在が他の生き物の生活を脅かしていることを知った。また、そのことで普段は

動物を生かす、命の尊さを学ぶ動物園の園長が、自然界の多くの動物の共存のために鹿を殺す立場になるということは、どれほど辛いか想像してもわからない。本当にかわいそうだ、残念だと思った。

そういう現状を知らない僕たちは、第三者の見方、他人事だという立場からの視点で「なぜ殺すのか？」といった多くの反対意見を出していく。現状に関心や問題意識を持っていないことが原因だと思う。

また鹿の側からすれば、生きるために食べているだけなのに殺されるというのは、おかしなことだと思う。こういうことから「全動物の共存」というテーマは、これからの大きな課題になるだろうし、もっと多くの人がこのことを知らなければならないと思う。

最後にこれから自分は、自分に関係のないことでも興味を持ち、少しでも人の役に立ちたい。

**MISSION カカオ畑から子どもを救え**

K. F.

僕たちは普通に学校に通っているけれど、世界では小学校にも行けずに、児童労働を強いられている子供達がいることを知って驚いたし、すごく胸がしめつけられるような感じがした。彼らが採ったカカオで作られたチョコレートを食べていると思うと、すごく申し訳なく思えた。

現在ガーナの村へ行って、このことを改善しようとしている日本人女性がいることも驚いた。最初は当然のように行われていた児童労働を否定する彼女に風当たりは強かったが、小さなことからコツコツ村人との信頼関係を深め、今では村人に児童労働に対する罪の意識を持たせるまでもっていった彼女の実行力はすごいと思った。

僕にはガーナに行って、直接子ども達を救うことはできないが、日本でできることをして、彼らの労働を終わらせ、彼らの夢を応援したいと思った。

**こうしてぼくらは医師になる**

M. Y.

私は将来、医療現場で働きたいと考えているのですが、今回DVDを見て、正直不安になった部分もあります。自分の判断一つで、もしかしたら誰かを死なせてしまうかもしれない、より深刻な状態にしてしまうかもしれない、そう思うと怖いです。

しかし、研修医の人たちも最初は同じような不安を抱きながら働いていました。きっとそんな不安や怖さを持ちつつ、自分の行動に責任をもって研修していく中で、少しずつその不安を自信に変えているんだと思いました。それなら、この今の気持ちを大切に私も夢に向かってがんばりたいと思います。

災害そのものは非常に不幸で辛いものだが、それによっておきる悲しみや怒りといった感情が次の行動の起爆剤になり、行動を共にした仲間や関わった人たちとのつながりに広がっていく。今回DVDを鑑賞して、そんなふうに思った。

このドキュメンタリーの主人公である三浦さんのような一見アグレッシブな人にも、やはり他の人みたいに羽休めをする時期が必要であり、それまで彼が支えてきた人たちに逆に支えられる、こうして人は生きていくんだという手本を見たように感じた。

震災によってそれまで希薄だった人と人とのつながりが強くなったという話は今までに何度も見聞きしたが、改めてそのつながりの大切さというものを感じた。また、復興はまだ終わっていないということも感じた。

**季節の言葉**

麦 秋 ばくしゅう

5月31日～6月4日ころ

麦が熟して、収穫するころ。実りの季節を、麦の秋とよびならわしました。

夏の季語です。

麦 嵐 おぎあらし

刈り取りを待つ麦畑は、いちめん黄金色。そんな麦秋の時期に麦の穂を揺らし、吹き渡っていく風を麦嵐、あるいは麦の秋風といいます。

芒 種 ぼうしゅ

6月6日ころ

芒種とは、稲や麦など穂の出る植物の種を蒔くころのこと。二十四節気の一つ。

稲の穂先にある針のような突起を芒(のぎ)といいます。